

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 7月25 日

## 【評価実施概要】

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 1072900523                         |
| 法人名   | 有限会社サイコ・ソマティックケア                   |
| 事業所名  | グループホームアルプス                        |
| 所在地   | 太田市藪塚町4149-3<br>(電 話) 0277-79-0200 |

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構 |
| 所在地   | 群馬県前橋市新前橋町13-12      |
| 訪問調査日 | 平成21年7月14日           |

## 【情報提供票より】(平成21年6月25日事業所記入)

### (1)組織概要

|       |            |        |                         |
|-------|------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成15年3月 1日 |        |                         |
| ユニット数 | 2 ユニット     | 利用定員数計 | 18 人                    |
| 職員数   | 20 人       | 常勤     | 18人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.2人 |

### (2)建物概要

|      |          |      |      |
|------|----------|------|------|
| 建物構造 | 鉄骨ヘーベル造り |      |      |
|      | 1階建ての    | 1階 ~ | 1階部分 |

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |           |
|---------------------|----------|----------------|-----------|
| 家賃(月額)              | 54,000 円 | その他の経費(月額)     |           |
| 敷 金                 | 無        |                |           |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無        | 有りの場合<br>償却の有無 |           |
| 食材料費                | 朝食       | 500 円          | 昼食 500 円  |
|                     | 夕食       | 500 円          | おやつ 100 円 |

### (4)利用者の概要(6月25日現在)

|       |         |      |      |    |       |
|-------|---------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 17 名    | 男性   | 6 名  | 女性 | 11 名  |
| 要介護1  | 1 名     | 要介護2 | 5 名  |    |       |
| 要介護3  | 5 名     | 要介護4 | 5 名  |    |       |
| 要介護5  | 1 名     | 要支援2 | 0 名  |    |       |
| 年齢    | 平均 84 歳 | 最低   | 72 歳 | 最高 | 101 歳 |

### (5)協力医療機関

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 協力医療機関名 | 宏愛会第一病院、太田市藪塚本町国保診療所、小暮医院、金子歯科 |
|---------|--------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設7年目となる当ホームは、規模の小さな事業所ながらホーム運営書類や入居者に関する記録物が整えられ、実際のケアやホーム運営を客観的に確認できる体制ができています。また、家族の苦情解決を重視しており、第三者委員を設置したり、家族会を開催し意見を挙げやすくする等、堅実なホーム運営ができるような取り組みを先駆的に行っている。新たに終末期のケア体制も整えられ利用者利益となる取り組みを常に考え改善している。職員の研修参加も計画的になされており、一人ひとりが毎月交代で自分の目標を上げ、意欲的に業務に取り組めるよう張り出す等の工夫をしており、職員資質向上と充実が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を活かした取り組みとして、重度化や終末期のケアについて検討し訪問看護や往診できる医師に関わってもらい対応することができている。</p>                                                                                                                                              |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や評価結果については全体会議で説明し理解できるよう促し、今回の自己評価も職員全員で評価項目を検討し、相談して一つのものに作り上げている。</p>                                                                                                                                                  |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に一度開催し、入居者・入居者家族会代表・民生委員・市職員・住民代表などで構成されており、主に「アルプスだより」というホーム新聞を活用して様子を説明している。また、入居者がホームを離れることがあるため見守ってほしい等の協力要請をしたり、参加者からの意見やアドバイスについて取り入れ運営に活かしている。</p>                                                 |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム新聞である「アルプスだより」で至般的な生活ぶりや職員の異動を報告している。個人の報告は、月に一度の利用料支払い時や面会時に伝えている。また、苦情解決の体制を整備し、「苦情受付書」を作成し、苦情があった場合どのように対処されたかがわかるよう記録に残している。さらに、第三者委員を設置し家族会に参加してもらい意見をきいてもらっている。「ご意見箱」も設置しており、些細な意見・不満も聞き取れる体制づくりに努めている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム主宰の納涼祭等に、近隣の方を招待して交流を深めている。また、地域の公民館で行われる写真展・作品展・敬老会等の催し物やお祭り等は近隣住民が事前に声をかけてくれたり、回覧板で知らせてもらい参加している。保育園児の訪問や地域の演芸ボランティアの受け入れも積極的に行っており、近隣の方が見学に訪れたり、野菜を届けてもらうこともある。</p>                                                         |

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目                                                                                      | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                      | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 開設当初からある「認知症の状態にある高齢者を、家庭的な環境のもとで、人間としての尊厳を重視しながら自らいきいきと安心して日常生活が営まれるよう支援する」の理念に、地域密着型サービスとなってからは「地域社会の一員として地域の皆さんと共同できるよう支援する」を職員全員からアンケートを実施し、話し合い修正し掲げている。        |      |                                  |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員は毎朝・夕ホーム内に掲示してある理念を全員で読み上げて、常に心がけるようにしている。また、入居者のいきいきと安心した日常生活のため、ストレスをかかえずやる気ができるよう観察を重視し、実際のケアにつなげている。さらに、理念である「家庭的な環境」での生活を考え、入居者から職員が息子や家族のように扱ってもらえるよう接している。  |      |                                  |
| 2. 地域との支えあい           |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | ホーム主催の納涼祭等に、近隣の方を招待して交流を深めている。また地域の公民館で行われる写真展・作品展・敬老会等の催し物やお祭り等は近隣の方が事前に声をかけてくれたり、回覧板で知らせてもらい参加している。保育園児の訪問や地域の演芸ボランティアの受け入れも積極的に行っており、近隣の方が見学に訪れたり、野菜を届けてもらうこともある。 |      |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 前回の評価を活かした取り組みとして重度化や終末期のケアについて検討し、訪問看護や往診できる医師に関わってもらい対応することができている。また、評価の意義や評価結果については全体会議で説明し理解できるよう促し、今回の自己評価も職員全員で評価項目を検討し、相談して一つのものに作り上げている。                     |      |                                  |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月に1度開催し、入居者・入居者家族会代表・民生委員・市職員・住民代表などで構成されており、主に「アルプスだより」というホーム新聞を活用して様子を説明している。また、入居者がホームを離れることがあるため見守ってほしい等の協力要請や参加者からの意見やアドバイスも取り入れ運営に活かしている。                 |      |                                  |

| 外部              | 自己 | 項目                                                                                                   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                        | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 事あるごとに太田市の元気おとしより課や包括支援センターに出向き、利用費や介護報酬について教えていただく等アドバイスをもらっている。また、市の介護相談員の訪問を受け入れ、意見をもらいサービス向上に取り組んでいる。                                                              |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                                        |      |                                  |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | ホーム新聞である「アルプスだより」で、全般的な生活ぶりや職員の異動を報告している。個人の報告は、月に一度の利用料支払い時や面会時に伝えている。金銭管理は各入居者毎に金銭管理帳に収支や残金を記入し、領収書は家族に渡して確認してもらっている。健康状態は病院受診時には必ず状態を伝え、急変時は電話連絡する等その時に応じて報告している。   |      |                                  |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 苦情解決の体制を整備し、責任者と苦情受付担当者を定めている。さらに「苦情受付書」を作成し、どのように対処されたかがわかるよう記録している。また、第三者委員を設置し、家族会に参加してもらい意見をきってもらっている。ホーム内には「ご意見箱」も設置しており、些細な意見・不満も聞き取れる体制づくりに努めている。               |      |                                  |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ホームは、入居者の影響も理解し職員の異動は必要最小限にするよう抑えているが、今年度は職員の家庭の都合等で離職するケースが続いた。そのため、新旧の職員が1ヶ月は一緒に働きスムーズな引継ぎが行えるようにし、また、入居者にも事情を説明し理解してもらえよう心がけている。                                    |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                                        |      |                                  |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 県や市の各種研修や認知症介護実践者研修には、職員の経験や段階、希望に応じて参加できるよう年間事業計画内で予定を立てて参加させている。また、参加者には報告書を作成させ会議等で演習や説明する機会をつくり、資料を供覧し研修内容を共有できるよう努めている。入職間もない職員には、新人研修としてホームのマニュアル等を項目をわけて説明している。 |      |                                  |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 地域密着型サービス連絡協議会に積極的に参加し、その中のサービス向上委員主催のレベルアップ研修でグループホームを相互訪問し、互いのよい点や気づいた点を確認し、さらなるサービス向上につながるよう取り入れたりしている。                                                             |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目                                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                             | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用する際には、できる限り本人にホームの見学にきてもらい、ホーム内の通所介護やショートステイを利用して時間をかけて馴染んで、納得した上で利用してもらえるようにしている。また、入居初期には家族に頻りに面会していただいたり、一緒に外出したり、一時帰宅するなど徐々に馴染めるような工夫をしている。                                           |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 職員は、入居者と一緒に料理の下ごしらえや味付け、また山菜料理の方法を教えていただくことがある。家庭菜園のやり方や昔の歌を教わることもある。また、時には職員の顔色を見て健康状態を気遣う言葉を言うてもらったこともある。そのような際には必ず感謝の言葉を伝え、共に支えあう関係を築いている。                                               |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                           | 入居時に家族から話をきいたり、本人から直接意向や希望を聞く以外にも、日ごろのなにげない言葉や観察を掘り下げ、その入居者の表面にでない思いを捉えることを大切にしている。                                                                                                         |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                             |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 事前に家族や本人からの希望を聞いた上で、各入居者に2名の担当職員が観察し情報収集して計画の原案を作成している。その原案をケアマネジャーがまとめ、さらにカンファレンスで全職員の意見を求め完成させている。出来上がった計画は家族に見ていただき説明し、修正や要望があればさらに加えている。                                                |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 3ヶ月に一度は変化がなくとも計画の見直しを全職員で行い、急変にともなう計画変更は申し送り簿で職員に伝達し、現状に即した内容の計画に作り変え、会議でさらに意見を求めたり、変更点の確認を行っている。また、介護日誌には各入居者の計画短期目標が印刷されており、記録する際は目標を意識してどのようなケアを実施したか記入することができるため、計画内容の実施状況がわかりやすくなっている。 |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目                                                                                          | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                     | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                 |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                     |      |                                                                   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 要望に応じて共用型の通所介護やショートステイの利用ができ、訪問看護ステーションとの連携もあり、訪問診療が可能である。また、家族の付き添いが困難な場合は受診介助や入院時に入居者の洗濯物を取りに行ったり、状態の説明や今後の注意を伺うなど利用者本位の支援に努めている。馴染みの美容院へ連れて行くなどの支援も行っている。        |      |                                                                   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                     |      |                                                                   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | ホームでは、入居以前からのかかりつけ医も、ホームの協力医も受診が可能である。どちらに受診した場合でも日ごりの様子やバイタルデータの記録を渡し、受診内容や注意点を個別の受診記録表に記録し、日誌にも記入して職員が共通認識できるよう努めている。                                             |      |                                                                   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療連携体制を整え、訪問看護ステーションとの連携と訪問診療が可能となり、終末期のケアに取り組むことができるようになった。ホーム独自に看取りのマニュアルを作成し、入居時には家族に看取りについての要望を伺い、入居者の容態により再度意向を伺うこととしている。また、説明の際には医師も同席し、今後の方針を全員で共有することとしている。 |      |                                                                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                     |      |                                                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                     |      |                                                                   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                     |      |                                                                   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員が、入居者に対して適切でない言葉かけや対応を見かけた場合は、その都度注意している。また、事例を挙げて全体会議で検討し、処遇改善に努めている。入居者の個人記録は、寮母室の机の鍵のかかる引き出しで管理している。また、秘密保持に関する契約書を職員と交わしている。                                  | ○    | 家庭的な雰囲気をかもし出しているが、入居者の尊厳と権利を考えた介護サービスの提供について、もう一度全職員で検討することを期待する。 |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 大まかなホームの一日の流れはあるが、入居者それぞれのペースを尊重し、食事に時間のかかる人はゆっくり召し上がってもらったり、朝から一人で散歩を楽しんだり、個人的なりハビリを行うなど個人の希望を優先している。                                                              |      |                                                                   |

| 外部                                   | 自己 | 項目                                                                              | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                           | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                    |
|--------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |                                                                                 |                                                                                                                                           |      |                                                                      |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 入居者の能力に応じて、配膳や下膳、箸配り、おしぼり配り、テーブル拭き、食器拭きなどを手伝ってもらっている。毎食職員と一緒に食事をとり、時にはおはぎ作りやおまんじゅう作り、うどんやそば打ちなどを入居者と一緒になって作ることもある。月に2回ほどは希望に応じた外食に出かけている。 |      |                                                                      |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴時間は概ね午後2時からで、各ユニットで週に2回と曜日を決めて支援している。隣接した同法人のグループホームとあわせて3ユニットあるため、希望があれば他の曜日(他のユニットでの)に入浴することができる。また、足浴や夏場シャワー浴がいつでもできるように支援している。      |      |                                                                      |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |                                                                                 |                                                                                                                                           |      |                                                                      |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者それぞれの好みや過去の経歴に応じて、書道の先生の経験者には習字を書くことを促したり、詩吟が得意な入居者には歌ってもらうなど、日々張り合いや喜びがあるよう支援している。                                                    |      |                                                                      |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 天気のよい日には午前と午後の2回必ず戸外に出かけ、ホーム周辺の散歩や外気浴を行っている。また、年間の行事計画を作成し、外食や遠方へのドライブなど月に1回は出かけている。                                                      |      |                                                                      |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 日中居室と玄関に鍵をかけることが常態化はしていないが、職員が食事作りや入浴介助に入った時、事務所に職員がいない場合には、一時的に施錠している。                                                                   | ○    | 入居者それぞれの外出行動パターンや時間帯を把握し、また職員の見守りの連携をさらに検討して、鍵をかけないケアの実践ができるよう期待したい。 |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 年に2回は消防避難訓練を消防署の指導の下、実施している。訓練には近隣の方2名ほど参加していただき、緊急の場合の協力をお願いしている。また、緊急連絡網を作り、事故発生時に備えている。                                                |      |                                                                      |

| 外部                        | 自己 | 項目                                                                                                        | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                      | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |                                                                                                           |                                                                                                                                                                      |      |                                   |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事は、業者の用意した食材で調理し、素材をやわらかくする等なるべく形状を変えずに調理して食べてもらうよう努めている。一日の副食の大まかなカロリーを把握しており、入居者ごとに食事摂取量を記録し、特に浮腫のある入居者には飲水量と排尿量をチェックしている。                                        |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |                                                                                                           |                                                                                                                                                                      |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |                                                                                                           |                                                                                                                                                                      |      |                                   |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間である食堂兼居間には、七夕飾り等の季節の行事物を飾ったり、掃きだしサッシがありサッシを大きく開けて風を通すことができ、自然な換気が可能である。廊下には、外出した際の写真を展示している。玄関などのコーナーには、植物を設置している。また、飾られている水彩画は地域の絵画倶楽部の好意で借り受けて飾っており、時々掛け変えている。 |      |                                   |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | 居室には、家族と相談して入居者が思い思いに持ち込んだ家具や調度品が置かれている。仏壇を置く方、家族の写真を飾る方など様々である。                                                                                                     |      |                                   |